

学級活動

Class Activity

学級活動は、学級生活の充実と向上に向け、他者と協働したり、個人として努力したりしながら、よりよい学級や学校生活をつくる活動です。教師の適切な指導の下、自主的、実践的な活動を積み重ねることで、児童生徒の自治的能力や自己指導能力、自己実現の力を高めます。

そのためには、学級や学校生活における集団や個人の課題の解決に向け、集団で「合意形成」を図り協力して実践したり、一人一人が自己の課題の解決方法について「意思決定」して実践したりする活動を重視することが大切です。

【学級活動のページで使用されている用語解説】

学級活動の3つの内容	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 (1) は全員で協力して楽しく豊かな学級・学校生活にするために、みんなで取り組みたいこと、つくってみたいこと、解決したいことなどの課題を取り上げる。(2) は現在の生活上の課題、(3) は現在及び将来を見通した生活や学習に関する課題を取り上げる。
合意形成	意見の違いや多様性を認め合いながら、折り合いを付け、集団としての考えをまとめたり決めたりすること。 内容 (1)
意思決定	話し合いで見付けた解決方法を参考にし、自分に合った具体的な解決方法を定めること。 内容 (2)(3)
計画委員会	話し合い活動を進めるための計画を立てたり、進行したり、準備をしたりする組織。一般的には、司会・記録(黒板・ノート)・提案者・教師で組織され、輪番制により、学級全員が経験できるようにする。
議題	学級活動(1)において、児童生徒が問題を発見し、学級の「共同の問題」として設定する課題。解決方法等について話し合い、折り合いを付けて、集団としての「合意形成」を図る。
題材	学級活動(2)(3)において、教師が個々の児童生徒の「共通の問題」として設定する課題。教師の指導に従って、解決方法等について話し合い、自己の課題に対する解決方法や努力目標を一人一人が「意思決定」する。

学級活動

学級活動には単元がないため、「1」では「事前の活動」→「本時の活動」→「事後の活動」の学習過程を示しています。

1 「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」の学習過程の作り方【例】

学級活動(1)の授業では、児童生徒が自分たちの学級や学校の生活をよりよくするために、問題を発見し、議題を設定し、話し合い、合意形成したことを協働して取り組むとともに、一連の活動を振り返り、次の課題の解決につなげることを通して自治的能力を育てます。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 児童生徒がよりよい学級や学校生活づくりに関わる必要感や切実感のある諸問題を見いだせるよう、以下のような視点を示す。
 - ①やる活動(みんなでしてみたいこと)
 - ②つくる活動(みんなで作ってみたいもの)
 - ③解決する活動(みんなで解決したいこと、生活を更によくすること)等
- 計画委員が主体的に学級会を運営できるよう、教師の適切な指導の下、学級会の進め方の計画を立てさせる。
 - <活動計画の内容>
 - 「学級会の役割分担」「提案理由」「話し合うこと」「話し合いのめあて」「決まっていること(日時や場所、内容)」等
 - <提案理由に入れる内容の例>
 - ①現状の問題点(今、こうなっている)
 - ②考えられる解決の方法(こうすることで)
 - ③解決後のイメージ(こうしたい、こうなりたい)
 - ※進行台本や板書計画等を事前に作成させておく。等
- 一人一人が自分なりの意見や意思をもって、話し合いに臨めるよう、朝の会や帰りの会などの時間を活用して、学級会ノート等に議題に関する意見を書かせておく。

- 合意形成できるよう、多様な意見を認め合い、互いのよさを生かしながら考え、伝え合う場を設定する。

- 自分のよさを発揮したり、互いのよさや頑張り気付いたりできるよう、学級の一員として仲間と協力して準備したり、仲良く実践したりする場を設定する。

- 振り返りの視点
 - <例>
 - ・活動中に起こっていたこと(行動・態度・発言)や自身や仲間の感情 ※仲間へのフィードバックも含む。
 - ・自分や学級の目標を達成できたかどうか。
 - ・活動や実践によって自分たちは何が変わった(成長した)のか。
 - ・自身や学級の次の目標の確認。等

話し合いの進行を円滑にするために～計画委員の充実～
 計画委員を輪番制にすることで、話し合いの進め方を学級全員が経験し、司会以外の児童生徒が進行についてアドバイスするなど、進行がより円滑になります。

過程と基本的な学習活動

1 問題を発見・確認する。

- ◇問題を発見する。(計画委員会)
- ◇議題を選定する。(計画委員会)

事前の活動

- ◇議題を決定する。(学級全員)

【議題】

- ◇活動計画を作成する。(計画委員会・提案者)
- ※計画委員会は、昼休みや放課後等に時間を見つけて行う。
- ◇問題意識を高める。

2 解決方法等を話し合う。

- ◇議題や話し合いの進め方を理解する。
- ◇解決方法等を話し合う。

P168 参照

3 解決方法を決定する。

- ◇集団として合意形成する。

本時の活動

4 決めたことを実践する。

- ◇合意形成したことを実践する。

5 振り返る。

- ◇一連の実践の成果や課題を振り返る。

一連の活動の振り返り

事後の活動

次の課題解決へ

小学校 第5学年

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
「議題 一番の思い出になる、最高の運動会にしよう」

<事前の活動>

1 問題を発見・確認する。

- ◇問題を発見する。(計画委員会)
みんなで解決したい議題を募集する。
- ◇議題を選定する。(計画委員会)
計画委員と教師が相談し、集まった議題の中で今の学級の現状を踏まえて議題を選定する。
- ◇議題を決定する。(学級全員)
解決すべきことかどうか、「議題ポイント」を基に考える。

議題ポイント (例)

- ・全員が関係しているか。
- ・学級や生活がよくなるか。
- ・自分たちで解決することができるか。

【議題】 一番の思い出になる、最高の運動会にしよう。

- ◇活動計画を作成する。
活動計画表を作成し、本時の進め方を決める。進行台本を作成したり、板書計画を立てたりする。

<活動計画表の項目例>

○ 議題	
○ 提案理由	
○ 司会グループ役割	
○ 話し合いのめあて	
○ 決まっていること	
	話し合いの順序
	気を付けること
1 はじめの言葉	
2 計画委員の紹介	
3 議題の確認	
4 提案理由の確認	
5 決まっていることの確認	
6 話し合いのめあての確認	
7 話し合い	
①意見の発表	
②整理、比べ合い	
③合意形成	
8 決まったことの発表	
9 振り返り	
10 先生の話	
11 終わりの言葉	

- ◇問題意識を高める。
議題についての意見を学活ノートに書く。
教室の「学級活動コーナー」に議題や学級活動の日時等を掲示する。

<本時の活動>

- 2 解決方法等を話し合う。
- 3 解決方法を決定する。

P169 参照

<事後の活動>

4 決めたことを実践する。

- ◇目標の実現を目指し全員で協力して練習に取り組む。

5 振り返る。

- ◇一連の活動を振り返り、評価をする。
練習から運動会当日までを振り返って作文を書き、学級で共有する。

【運動会後の作文】(一部省略)

運動会が近くなっても練習がしっかりとできていなくて心配だったけど、みんなで話し合った結果、休み時間に練習することができ、当日もうまくできたと思います。「最高で一番の思い出に残る運動会」にすることができました。



中学校 第1学年

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
「議題 合唱コンクールの学級のスローガンを決めよう」

<事前の活動>

1 問題を発見・確認する。

- ◇問題を発見する。(計画委員会)
事前アンケートや議題ポストから、学級の問題を発見する。
- ◇議題を選定する。(計画委員会)
計画委員と教師が相談し、集まった議題の中で今の学級の現状を踏まえて議題を選定する。
- ◇議題を決定する(学級全員)
合唱コンクールに向けて学級全体で協力して取り組むには、学級のスローガンが必要であることを確認する。



【議題】 合唱コンクールの学級のスローガンを決めよう。

- ◇活動計画を作成する。(計画委員会・提案者)
朝の時間・昼休みなどの時間を有効に活用し、活動計画表を作成し、本時の進め方を決める。

<提案理由の例>

- ①現状の問題点(今こうなっている)
議題ポストに「合唱コンクールでどうしても学級が一つにまとまるか。」という意見が入っていた。事前アンケートで合唱コンクールの学級全体の課題として、「みんなの気持ちがそろっていない。」という意見があった。
- ②考えられる解決の方法(こうすることで)
学級で話し合っ、合唱コンクールの学級スローガンを決める。
- ③解決後のイメージ(こうしたい、こうなりたい)
学級が力を合わせて、合唱コンクールに臨めるようにしたい。

- ◇問題意識を高める。
教室の「学級活動コーナー」に議題や学級活動の日時等を掲示する。

<本時の活動>

- 2 解決方法等を話し合う。
- 3 解決方法を決定する。

P169 参照

<事後の活動>

4 決めたことを実践する。

- ◇スローガンの達成に向けて、学級で協働して、合唱コンクールに向けた実践(日々の練習・話し合い・他学年との練習)を行う。

5 振り返る。

- ◇一連の活動を振り返り、評価をする。
実践の過程でスローガンが意識できたかどうか、ワークシートを用いて自己評価する。練習から合唱コンクール当日までを振り返って作文を書き、学級で共有する。

【合唱コンクール後の作文】(一部省略)

このスローガンを決めて合唱コンクールを迎えられてよかったです。クラスがまだまだ一つになっていない時にスローガンを決めました。スローガンが決まってから、それに向けて気持ちが高まり、クラスが一つになった声を響かせられてよかったです。

1 「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の学習過程のつくり方【例】

学級活動(2)、(3)では、児童生徒は学級での話し合いを通して、共通する課題を見だし、多様な視点から解決方法を見付け、自己の具体的な実践課題を決めて、粘り強く努力します。本時において、児童生徒一人一人が自分に合った具体的な実践目標を意思決定できるようにするとともに、自ら決めたことを実践して振り返り、自ら改善するための事後指導が重要です。

主體的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 年間指導計画により、個々の児童生徒が共通に解決すべき問題として「題材」を設定する。
※児童生徒が直面している課題を取り上げる場合もある。
- 題材について学級の問題等を確認する。学級の実態把握に加え、養護教諭や栄養教諭、地域で働く人などの協力を得て事前調査し、専門的な知識や考えを生かす。
- 問題意識の共有化が図れるよう、題材と自分自身とのつながり（関係性）を理解させたり、将来を見据えた目的意識をもたせたりする。
- 本時の指導計画や資料を作成する。発達段階に応じ、計画委員等の自主的な活動を取り入れる。
- 問題意識を高められるよう、題材に関する自分の現状を考えたり、学級の現状を調べさせたりする。

- 自分に合った具体的な実践方法やめあてが決められるよう、仲間の意見や教師が提示した新しい解決方法に着目させる。

- 児童生徒が「自分もやればできる」「頑張ったよかった」などの自己効力感や自己肯定感をもてるよう、目標実現に取り組む姿を認め、励ます。
- 実践意欲の継続化を図れるよう、定期的に振り返りの時間を設け、自分が意思決定したことを確実に実践しているかどうか、自己評価カードに記入させたり、実践状況を話し合わせたりする。
- 児童生徒が活動を記録し、蓄積できる教材等（ポートフォリオ的な教材）の活用を図る。

過程と基本的な学習活動

事前の活動	1 問題を発見・確認する。
	◇題材を設定する。(教師)
	◇問題を確認する。
	◇共通の課題を設定する。
	【共通の課題】
	◇活動計画を作成する。
	◇問題意識を高める。

本時の活動	2 解決方法等を話し合う。
	◇課題を把握する。
	◇原因を追求する。
	◇解決方法を見付ける。 P170 参照
	3 解決方法を決定する。
	◇個人的意思決定をする。

事後の活動	4 決めたことを実践する。
	◇意思決定したことを実践する。
	5 振り返る。
	◇実践を定期的に振り返る。
	一連の活動の振り返り

次の課題解決へ

小学校 第5学年
 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
 「題材名 給食の残量を減らすために自分たちにできることを考えよう」

<事前の活動>

1 問題を発見・確認する。

- ◇題材を設定する。
 日によって給食を残す児童が多いことがある。そこで、給食は自分たちの健康のためにつくられているということに気づき、少しでも、苦手なものが食べられるようにするための工夫を考える。
- ◇問題を確認する。
 給食の残量が多い日と少ない日があることから、好きな献立と、苦手な献立があることについて、実態把握をするためのアンケートを実施する。
- ◇共通の課題を設定する。
 アンケート結果を基に、「苦手な献立の際に、給食を残してしまう人が多い。」という、共通の課題を設定する。

【課題】 給食を残さないように食べる工夫を考えよう。

- ◇活動計画書を作成する。
 計画委員と教師が話し合い、活動計画書を作成する。
- ◇問題意識を高める。
 学級活動コーナーに、家庭科の時間や保健体育の時間に学習した、「食物の栄養素やバランスのよい食べ方」についての資料を掲示しておく。
 ※給食の片付けの時の写真を撮っておき、本時に生かせるようにする。
 ※保護者にも協力を得て、家庭の献立で気を付けていることを聞いておく。



<本時の活動>

- 2 解決方法等を話し合う。
- 3 解決方法を決定する。

P171 参照

<事後の活動>

4 決めたことを実践する。 がんばりカード (例)

- ◇意思決定したことを実践する。
 本時に決めた自己の目標を教室に掲示し、意識を高め、実践に向け、実践を行う。

5 振り返る。

- ◇実践を定期的に振り返る。
 意思決定し、1週間実践したことの結果を自己評価したり、友達と認め合ったりする。

【振り返りの例】

みんなも、好き嫌いがあることも分かったし、苦手なものでも、食べた方が体にいいことも分かりました。苦手なものが一口でも食べられるように、みんなの食べ方の工夫を参考に挑戦していきたいです。

バランスよく食べよう

1 私の目標

給食の時、苦手なメニューでも一口でもいいから食べるようにする。

2 行動をふりかえろう。

1日	2日	3日	4日	5日
○	◎	○	△	○

中学校 第1学年
 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
 「題材名 学校図書館を積極的に活用しよう」

<事前の活動>

1 問題を発見・確認する。

- ◇題材を設定する。
 学校の図書室を読書や自主的な学習に活用している生徒が少ない。図書室のもつ機能(読書センター、情報センター、学習センター)に気づき、有効に活用していくためにどうすればよいかを考える。
- ◇問題を確認する。
 図書室の利用に関する事前アンケートを行い、問題を確認する。

<アンケート項目の一部>

- ・図書室を週に何回くらい利用しているか。
- ・図書室をどのように活用しているか。
 ア 好きな本を読んだり、借りたりしている。
 イ 学習に必要なことや自分で知りたいことについて、図書や新聞等を使って調べたり情報を得たりしている。
 ウ 図書室で情報や資料を得て、自分の考えを深めたり、調べたことをまとめたりしている。

- ◇共通の課題を設定する。
 アンケートを集約し、「図書室を利用して読書している人が少ない」「図書室を利用して、情報を得たり、自主的な学習に生かしたりしている人が少ない」という学級全体が抱える共通の課題を設定する。

【課題】 図書室を積極的に活用して、読書に親しんだり、自分の学習を深めたりしよう。

- ◇活動計画書を作成する。
 朝の時間・昼休みを活用して、計画委員と本時の進め方の相談をする。その際、活動計画書を作成する。
- ◇問題意識を高める。
 学級活動コーナーに話し合いの題材や活動計画表を掲示する。

<本時の活動> 図書館司書とのチームティーチング

- 2 解決方法等を話し合う。
- 3 解決方法を決定する。

P171 参照

<事後の活動>

4 決めたことを実践する。

- ◇目標の実現に向け、粘り強く実践する。
 自分が意思決定した目標の実現に向け、図書室を活用していく。

5 振り返る。

- ◇定期的に振り返る。
 本時で使用したワークシートを用いて振り返りをする。

【振り返りの例】

以前は、月に1回程しか図書室に行かなかったけど、今は週に1、2回は図書室に行って本を借りるようになりました。これからは、図書室で授業で習ったことや興味をもったことなどについて調べたりまとめたりしてみたいと思います。

2 単位時間の作り方「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」【例】

学級会では、児童生徒から出された提案理由を基に、課題解決のための方法を話し合い、解決方法の決定を行います。基本的な話し合いの流れとしては、「つかむ」→「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる（決める）」が考えられます。このような流れの中で学級として折り合いを付けて意見をまとめたり、合意形成を図ったりします。

【指導のポイント】

【つかむ場面について】

- 「話し合いのめあて」には、内容や方法に関わるものがある。
＜例＞
- ◆男女ともに楽しめる遊びとなるようにルールを工夫しよう。（話し合いの内容のめあて）
- ◆友達の意見のよさを生かして話し合おう。（話し合い方のめあて） 等

【多様な意見を引き出すための工夫】

- 提案理由に沿って、一人一人が付箋紙に自分の考えを書き、グループで分類・整理したり、小グループで意見交換したりさせる。
- 一人一人が事前に学級会ノートなどに書いた考えを短冊等に記入し、事前に掲示しておく。

【比べ合う場面について】

- 質問を通して、意見の内容やそこに込められている思いを理解させる。
＜例＞
- ◆「○○さんの意見は、△△ということですよねか」 等

【まとめる（決める）場面について】

- 「自分もよくてみんなもよい」という合意形成ができるように、折り合いを付けさせる。

【折り合いを付けるために】

【折り合いを付けるための条件】

- 提案理由が合意形成をする際の根拠になっている。（何のためにするのか、何のために話し合うのか）
- まとめるための条件が明らかになっている。（いつ、どこで、何を、どのようにするか）

【合意形成のためのプロセスの例】

- ・新しい考えをつくる。（AとBの意見のよいところを合わせ、Cの意見をつくる）
- ・二つ以上の意見を合わせる。
- ・優先順位や時間を決め、順番に行う。
- ・多数決を行う。

【多数決について】

- ・意見が出し尽くされた状態で、多数決を行うことを全員が承認した場合に限り行う。多数決で決めたことは、必ず協力して行うことをはじめに確認させる。

基本的な流れ

1 つかむ

- 議題、提案理由、「話し合いのめあて」などを学級全体で確認させる。

＜進め方の例＞

- ①はじめの言葉 ②計画委員の紹介 ③議題の確認
- ④提案理由や「話し合いのめあて」の確認

「話し合いのめあて」

2 出し合う

- 一人一人の意見を発表し合う場を設定する。
- 発言の苦手な児童生徒が参加しやすい雰囲気をつくる。
- 理由を明確にして発表させる。その際、提案理由や話し合いのめあてに沿って言えるようにする。

3 比べ合う

- 出された意見の内容を共有させる。
- それぞれの意見を分類したり、整理したりして、互いの考えの違いや共通点を確認させる。

4 まとめる（決める）

- 最終的に折り合いを付けるなどして、集団としての「合意形成」を図り、全員の総意としてまとめさせる。
- 話し合いで決定したことを確認させる。
- 話し合いの振り返りをさせる。（学級会ノートや、振り返りカードの活用）

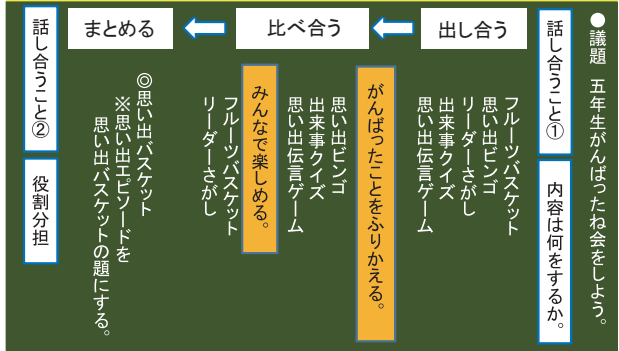
【振り返り】

【先生の話】

- 発達の段階や学級の実態を踏まえながら、学級会でよかったことや次回への課題などを具体的に伝える。
- 司会グループへの賞賛、学級全体へ実践意欲を高める声かけをする。

意見の分類の方法（思考の可視化・操作化・構造化）

【例 仲間分けの場合】



小学校 第5学年

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
「議題名 一番の思い出になる、最高の運動会にするために」

【ねらい】

運動会に向けての話合い活動を通して、児童自ら「思い出に残る運動会にしよう」とする気持ちを高める。

1 つかむ（議題や話合いの進め方を理解する）

【めあて】

全員が納得のいく結果になるように、折り合いを付けて話し合おう。

- 計画委員に議題や提案理由を伝えさせる。



計画委員

議題ポストに「運動会に向けて話し合いたい。」「全員での練習が足りない。」という意見が入っていました。

クラスの目標と具体的な練習内容を決めることで、運動会に向けてみんなの気持ちを一つにしていきたいと思います。



計画委員

2 出し合う

- 学活ノートに書いてきた意見を発表させる。



児童

組み立て体操は、たくさん練習したので、遊競技の練習をした方がいいと思います。



児童

組み立て体操で自分の場所を覚えていない人がいるようです。もっと、練習をした方がいいと思います。

- 他にも案がないか近くの人と話し合いをさせる。

3 比べ合う

- 黒板書記を中心に短冊を使って意見を整理させる。



児童

組み立て体操は、場所が分かれば大丈夫だから、場所の確認だけでもいいかな。

遊競技は、1回しか練習してないから不安だよね。



児童

4 まとめる（決める）

- 折り合いチェック表を基に全員で合意形成させる。



児童

組み立て体操は、場所だけ確認して、後は休み時間も活用して遊競技の練習をした方がいいと思います。

【折り合いチェック表】

意見	賛成	反対	不明
A	3	1	0
B	2	2	0
C	1	3	0
D	0	1	2

- ①意見を一つに絞る。
- ②それぞれの良い点をまとめる。
- ③順番を決める。



計画委員

みんなが不安を抱えたまま、運動会を迎えるより、時間を有効に使って、表現や遊競技の練習ができるように休み時間に練習しましょう。

（決定したこと）

クラス対抗の遊競技を休み時間に練習する。

★コツを見つける！ ★声をかけ合う！

【振り返り】

自分たちで練習計画が立てられたので、やる気が出てきました。頑張ります。出てきた意見をまとめたたら、今のクラスに必要な練習がはっきりしました。自分達で決めたのだから、頑張ります。

中学校 第1学年

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
「議題名 合唱コンクールの学級のスローガンを決めよう」
【ねらい】

合唱コンクールに向けての学級のスローガンを話し合っ
て決めることを通して、学級の生徒が力を合わせて集団活
動に取り組むことができるようにする。

1 つかむ（議題や話合いの進め方を理解する）

【めあて】

学級が力を合わせられるように、合唱コンクールに向
けての学級のスローガンを決めよう。

- 計画委員に議題や提案理由を伝えさせる。



計画委員

議題ポストに、「合唱コンクールでどうすればクラスが一つにまとまるか。」という議題が寄せられました。クラスが力を合わせて行くには、スローガンが必要と考えました。

2 出し合う

- 個人の意見を付箋紙に書かせ、班で発表し合うよう促す。

「仲間」という言葉が入った方がいいと思います。



「協力」という言葉もいいと思います。

- 各班で出し合った意見をホワイトボードで黒板に掲示させる。



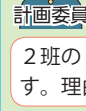
3 比べ合う

- 学級全体の場で、班で考えた意見を発表し合うよう促すとともに、その意見を比べ合わせる。



計画委員

ホワイトボードに書かれている言葉をもとに、よりよいものにしていきましょう。意見のある人、発表してください。



生徒

2班の「響かせろ 絆深まる1A魂」がよいと思います。理由はクラスの団結力を表しているからです。



生徒

4 まとめる（決める）

- 各グループの案をもとに、意見の合意形成を図らせ、一つのスローガンとしてまとめさせる。



生徒

「絆が深まる」という言葉や、学級旗にある「1A魂」が複数の班から出ているので、まとめるのはどうでしょうか。



生徒

響くという言葉も複数の班から出ているので、それを生かしたらどうでしょうか。



計画委員

いい言葉をまとめて、クラスのスローガンにすることいいですか。

（決定した学級スローガン）

『ひびけ歌声 みんなで1つ 絆深まる1A魂』

【振り返り】

スローガンを意識して練習に取り組み、クラスが一つにまとまるよう、頑張りたいと思います。

2 「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」【例】

(2)(3)では、「つかむ」→「さぐる」→「見付ける」→「決める」の四つの段階の学習過程を重視し、自己の問題の解決方法等や、今、努力することについて意思決定することができるようにしましょう。

【指導のポイント】

【つかむ場面について】

- アンケートやインタビュー、映像や写真などを活用して、課題を自分ごととして捉えさせる。
 - 課題を児童生徒の言葉に置き換え、「本時のめあて」として提示し、話合いの方向性を意識させる。
- <例>
- ◆友達と接するとき大切なことを考え、自分が気を付けることを決めよう。(2)
 - ◆充実した楽しい中学校生活にするために、今から小学校卒業までに努力することを決めよう。(3) 等

【さぐる場面について】

- 付箋紙やホワイトボード等を活用して、原因を分類・整理しながらグループ等で話し合うなど、書いたり話したりする活動を位置付ける。
- 学級活動ノート、頑張っている様子の写真や映像などを活用することで、自分の成長を実感させる。

【見付ける場面について】

- 話合いのグループを意図的に編成するなどして、多様な視点で考え、視野を広げさせる。
- 小グループや学級全体での話合いを通して、考えを広げる。その際、互いのよさを認め合いながら励まし合ったり、友達にアドバイスしたりすることで、実践意欲を高めさせる。

例 多様な視点で考えさせる工夫

◇情報交換の際のグループ編成

- ・指定されたグループ
- ・解決方法が同じ人同士
- ・解決方法が違う人同士

私は〇〇と考えるのですが、〇〇さんはどうですか？

◇適切な資料提供

- ・児童生徒に足りない視点を与える。

◇専門家の活用

- ・養護教諭や栄養教諭などと連携を図り、専門家の知見を話してもらう。

【決める場面について】

- 自己の課題に沿って実現可能で自己評価できる内容にする。(何を、いつまで、どれくらい、どのように)
- 自分に合わない目標や実現性の低い目標を決めている児童生徒には、「見付ける」段階でみんなで出した考えを参考に、自分にできそうなことを選ぶように助言する。
- 授業の流れを振り返りながら自分に合った目標を意思決定させる。その際、なりたい自分に向けたより具体的な目標を決めるよう、がんばりカード等を活用する。

基本的な流れ

1 つかむ (課題の把握)

- アンケート結果を提示し、課題を把握させる。
- 本時のめあてをつかませる。

「話合いのめあて」

2 さぐる (原因の追求、可能性への気付き)

- 問題の原因を明らかにして、解決に向けての方向性をはっきりさせる。(2)
- これまでの自分を振り返るよう促し、「なりたい自分」について自分の願いをもたせたり、よさや可能性を探らせたりする。(3)

3 見付ける (解決方法等の話合い)

- みんなでよりよい解決方法や努力事項などについて話し合ってみ付けてさせる。(2)
- みんなで「なりたい自分」を追求するためにできることなどを出し合ってみ付けてさせる。(3)

4 決める (個人目標の意思決定)

- 自己の課題を解決するために努力すべき具体的な個人目標 (内容や方法) を各自で意思決定させる。(2)
- なりたい自分になるために、自分に合った具体的な個人目標 (内容や方法) を各自で意思決定させる。(3)
- 互いに自分が実践していくことや努力していくことを発表し合うよう促す。

【振り返り】

振り返りの充実 (学級会ノートと振り返りカード等)

- 児童生徒が、各自の個人目標を常に意識して行動し、振り返ることができるように「自己評価表」を用意する。その際、日々の努力する様子が分かるように、活用の仕方を工夫し、実践意欲の継続化を図らせる。

学級会ノートに記入する視点

学級会ノートの例

- ・自分や友達のよかったところや頑張ったところは何か。
- ・めあてや提案理由を踏まえて話し合い、折り合いを付けて合意形成することができたか。
- ・前回の学級会と比べてよかった点や、次回に向けての改善点は何か。等

振り返りカードに記入する視点

振り返りカードの例

- ・学級活動ノートに貼り付け、年間を通して生活や人間関係づくりに関する意識の変容を捉えられるようにする。
- ・「友達からのメッセージ」欄を設け、相互評価を通して自分のよさに自信をもたせる方法も考えられる。

小学校 第5学年

(2) 学級や学校における生活づくりへの参画
「題材名 給食の残量を減らすために自分たちにできることを考えよう」

【ねらい】

苦手なものでも、みんなが少しでも食べることにより、給食の残量を減らせることから、食べ方の工夫を考える。

1 つかむ (課題の把握)

- 本時の課題をつかむために、事前アンケート結果を提示する。



計画委員

先日行ったアンケートで、みんなの好きな献立や、苦手な献立があることが分かりました。このところ、給食の残量が多いことが気になっています。どうしたら、残量を減らすことができるでしょうか。



担任

今日は、みんなで給食の残量を減らすための、食べ方の工夫について考えていきたいと思います。

【めあて】

給食を残さないように食べる工夫について考えよう。

2 さぐる (原因の追求)

- アンケート結果について気付いたことを発表するよう促す。



児童

自分以外にも、苦手なものは食べない子が多いのだな。

苦手なものがない子もいるんだな。どうしたら何でも食べられるようになるのかな。



児童

- 保健体育や家庭科の授業で扱った、食べ物の栄養と健康生活について学んだことを想起させ、気付いたことを発表させる。



児童

給食の献立は、栄養士さん達が私たちの健康のことを考えてくれているんだな。

食べた方がいいことは分かるけど、苦手なものは食べられない気がするな。



児童

3 見付ける (解決方法等の話し合い)

- 健康のために、みんなが少しでも食べることが大切であることから、少しでも食べられるような工夫はないか問いかける。



児童

好きなものと一緒に食べるといいと思います。

一口ずつ食べて、だんだん増やしていくのもいいと思います。



児童

- 苦手なものを食べられるようになった子に発表させる。



児童

最初は苦手だったけど、少しずつ食べていくうちに、食べられるようになったよ。

4 決める (個人目標の意思決定)

- 個人の行動目標を作成させる。

みなさんの意見を基に、自分で取り組むことを決めて、ワークシートに記入しましょう。



計画委員

【振り返り】

健康のためにも、少しでも食べた方がいいので、一口は必ず食べるようにしていきたいです。

中学校 第1学年

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

「題材名 学校図書館を利用しよう」

【ねらい】

積極的な学校図書館(図書室)の利用に向けた自己の目標を考えることを通して、主体的な学習態度を形成できるようにする。

1 つかむ (課題の把握)

- 事前アンケートの集計から、学校図書館の利用状況を把握させる。



計画委員

アンケート結果から、約6割の人が図書室を利用していないことが分かりました。今日は、図書室の利用について考えていきたいと思います。



担任

今日は、図書室をもっと利用してもらえよう、いろいろな意見を出してくれることを期待しています。



司書教諭

図書室を積極的に利用できる話合いになるといいですね。

【めあて】

積極的に学校図書館(図書室)が利用できるように、自分の目標を考えよう。

2 さぐる (可能性への気付き)

- ホワイトボードを用いてグループで話し合い、あまり図書室に行かない理由を出し合う。

本にあまり興味が無いし、図書室にどんな本があるか知らないな。



生徒

- グループで意見を交換し、積極的に図書室を利用するための方法を「おすすめ図書室利用法」として、ホワイトボードにまとめさせる。



計画委員

図書室を積極的に活用するためのアイデアをグループで考えてください。

3 見付ける (解決方法等の話し合い)

- グループで話し合ったことを踏まえ、学級全体で「おすすめ図書室利用法」を発表させる。発表を聞くことで、積極的に図書室を利用できる方法を見付けさせる。



生徒

友達におすすめの本を紹介してもらおうのがいいと思います。

各自で図書室に行く日を定期的に決めるのがいいと思います。



生徒

4 決める (個人目標の意思決定)

- 積極的な図書室利用に向けた、個人目標を決め、ワークシートに記入する。



計画委員

これまでにでてきた意見を参考に、これから積極的に図書室を活用するために、どんなことをするか、ワークシートに記入してください。

- 図書室に関する話をする。

(具体的に本の内容を紹介し) 図書室にはこんな本もあります。ぜひ利用してみてください。



担任

図書室を有効に利用できるようになると、様々な知識が身に付き、みなさんの成長につながります。今日決めた目標に向かって実践していきましょう。



司書教諭

【振り返り】

今日の学級活動で決めた目標を基に、これからは積極的に図書室を活用していきたいと思っています。

学級活動

※学級活動には、教科書がないため「3 学習過程と教科書との関連」は記載していません。

4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
相手の気持ちを察したり理解したりすることが苦手な場合	他者の心情等を理解しやすいように、役割を交代して相手の気持ちを考えたり、相手の意図を理解しやすい場面に置き換えたりすることや、イラスト等を活用して視覚的に表す指導を取り入れるなどの配慮をする。
話を最後まで聞いて答えることが苦手な場合	発言するタイミングが理解できるように、事前に発言や質問をする際のタイミングなどについて具体的に伝えるなど、コミュニケーションの図り方についての指導をする。

見通しをもつために、話し合いの時間の目安を示すことで時間を意識して話し合うことができるようにする。

賛成、反対のマークを色を変えて貼ることで、話し合いの状況や経過を分かるようにする。

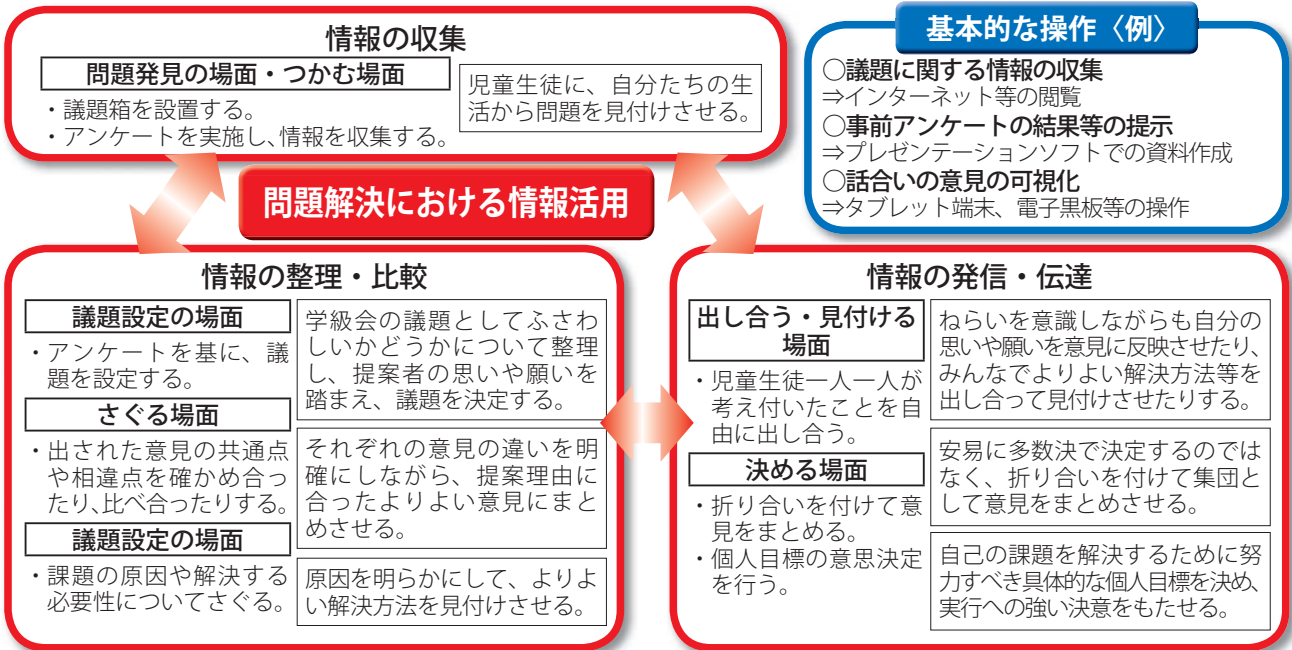


「提案理由」や「めあて」を提示することで、大事なことを授業中に確認できるようにする。

意見を書いたカードを操作しながら、意見を分類・整理して、意見を比べやすくする。

5 情報活用能力の育成

学級活動における情報とは・・・問題の発見・解決の学習過程の中で必要となる、事前調査の結果、提案理由等の話し合いにおける前提条件、話し合いの中で出された児童生徒の意見等のこと。



6 地域の人材や物的資源の活用

学級活動では、保健や安全、社会や職業との関連など、地域の人々との連携が必要な内容が数多くあります。以下の例を参考に、指導する内容によって、積極的に地域の人材を活用し、専門的な立場から話を聞くなどの工夫をしましょう。

活動内容 ※表紙の「3つの学習内容」参照	専門家、講師等
(1) ウ ・地域との交流	・地域のお年寄り 等
(2) イ ・男女の協力、互いのよさの発見 等 ウ ・病気の予防、交通安全 等 エ ・楽しい食事 等	・スクールカウンセラー ・学校相談員 ・医師、看護師 ・交通指導員 ・栄養士 ・給食調理員 ・調理師 等
(3) イ ・清掃活動等の当番、ボランティア活動 等 ウ ・図書館利用の仕方 等	・地域のボランティア ・職場体験先の方 ・司書教諭 ・公立図書館司書 等